対モザンビーク共和国 事業展開計画

2017年4月現在

基本方針 (大目標) 潜在力を活かした持続可能な経済成長の推進と貧困削減

重点分野 1 (中目標)	回廊開発を含む地域経済活性化											
	年、石炭・天然ガインフラの整備を ザンビークはザント港に向けて続く とその周辺地域の	「スを始めとした資源開発が開始さ 中心として地域経済の成長を加速 アビア、マラウイ、ジンバブエなと 道路は経済(開発)回廊として重	は共和国を中心とした商業取引に依存しているが、近れ、回廊開発及び地域経済の活性化のために、周辺を化し、地域経済を多角化する必要がある。また、モビの内陸国の外港を有しており、特にナカラ港、マプロ大会でのでである。このような幹線道路の整備のでは、サンビア、ジンバブエ等)の	【開発課題への 開発課題に対し (1) 回廊及び回 (2) 回廊周辺地	て以下の]廊周辺#	- 取組を行 地域の社	会基盤					
							実施	期間			支援額	
	協力プログラム名	協力プログラム概要	案件名	スキーム	2016 年度 以前	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	(億円)	備考
		ナカラ回廊及び周辺地域における道路・橋梁の整備・改修など	ナンプラ-クアンバ間道路改善計画	有償	NH1						59. 78	アフリカ開発銀行との協調融資 経済インフラ整備プログラムにも該当
		の社会基盤整備を行い、回廊周辺地域の農業開発支援、及び教	マンディンバーリシンガ道路改善計画	有償							67. 73	アフリカ開発銀行との協調融資 経済インフラ整備プログラムにも該当
		育・保健等包括的な支援を行 う。	イレ-クアンバ間道路橋梁整備計画	無償							38. 05	経済インフラ整備プログラムにも該当
			カーボデルガード州橋梁建設計画	無償							34.19	経済インフラ整備プログラムにも該当
			ナカラ回廊道路網改善事業準備調査	協準							2.63	円借款付帯案件、経済インフラ整備プログラムにも該当
			ナカラ回廊農業開発研究能力向上プロジェクト	技プロ							6.00	農業技術支援プログラムにも該当
開発目標1-1 (小目標)			ナカラ回廊農業開発マスタープラン策定支援	開発計画							4.80	有償勘定技術協力 農業技術支援プログラムにも該当
			ナカラ回廊農業開発におけるコミュニティレベル開発モデル策定 プロジェクト	技プロ							12.00	農業技術支援プログラムにも該当
回廊開発支援	発・整備プログ		ナカラ港運営改善支援	個別専門家								円借款付帯案件
	ラム		ナカラ港運営改善支援	国別研修								円借款付帯案件
			ナカラ港開発計画 (I)	有償							78.89	経済インフラ整備プログラムにも該当
			ナカラ港開発計画 (Ⅱ)	有償							292. 35	経済インフラ整備プログラムにも該当
			円借款事業実施支援アドバイザー	個別専門家								円借款付帯案件

			ナカラ回廊送変電網強化計画	無償							20. 12	
			ナカラ市医療従事者養成学校建設計画	無償							21. 21	基礎保健改善プログラムにも該当
			ニアッサ州持続的給水システム推進プロジェクト	技プロ		_					6.82	給水・衛生改善プログラムにも該当
			モバイルマッピングシステムを活用した道路維持管理手法の導入 に関する案件化調査	協準							0.02	和小 南工収合フェック公に 0 欧当
			ナカラ回廊開発促進支援	個別専門家								新成長戦略案件 経済インフラ整備プログラムにも該当
		マプトガス複合式火力発電所整備計画 マプトリカに通じるマプト回廊	マプトガス複合式火力発電所整備計画	有償							172. 69	産業振興プログラムにも該当
	マプト回廊開	のゲートウェイとなる首都マプ	マプト市における持続可能な3R活動推進プロジェクト	技プロ		_					7.09	防災・気候変動プログラムにも該当
	発・整備プログ ラム	トの都市機能を強化するため、 開発計画の策定、インフラ整	送変電網緊急改修計画準備調査	協準	_							
		備、技術支援を行う。	環境分野の青年海外協力隊	JOCV								
	業セクター開発で	ある。全人口の70%が居住する農	成)及びSDG2(飢餓の撲滅)の達成の鍵となるのが農 村部における就業者の95%は農業に従事しており、ま ・低生産性の自給自足型農業を営んでいるため農家の		• 強化,	普及員の	の能力向	上、農民	の組織	化・体制	強化、適切	模農家をターゲットに、既存の な営農方法・農業技術の指導・ す。
	収入は著しく低い	ことから、小規模農家の生産性の が国内生産でまかなえず、輸入に	の日とと市場へのアクセスの向上が重要である。さら 前上と市場へのアクセスの向上が重要である。さら 頼っている現状であり、今後、国内の米の生産性を	(2)農業・農 ² 人材育成を行う。 (3)米増産支 共同体(CARD)」	爰:農業 の活動で された「	行政能 生産性 を活用し 食料安全	カ向上支 対上支援 た稲作3 全保障及	援:総合の一環と を援に取 び栄養の	的なコ :して、 り組み,)ための	日本の出 米の国I ニューア	ーィ開発を目 に較優位性及 内供給の増加 フライアンス	指し、中央及び地方レベルでの び「アフリカ稲作振興のための ロを目指す。 」の枠組みで、日本は米国とと
	収入は著しく低い に、米の国内供給	ことから、小規模農家の生産性の が国内生産でまかなえず、輸入に)向上と市場へのアクセスの向上が重要である。さら	(2) 農業・農 人材育成を行う。 (3) 米増産支 共同体(CARD)」 (4) G7で開始	爰:農業 の活動で された「	行政能 生産性 を活用し 食料安全	カ向上支 対上支援 た稲作3 全保障及 リード国	援:総合の一環と を援に取 び栄養の	的なコ :して、 り組み,)ための	日本の出 米の国I ニューア	イ開発を目 比較優位性及 内供給の増加 フライアンス 一とも連携	指し、中央及び地方レベルでの び「アフリカ稲作振興のための ロを目指す。 」の枠組みで、日本は米国とと
開発目標 1 — 2 (小目標)	収入は著しく低い に、米の国内供給	ことから、小規模農家の生産性の が国内生産でまかなえず、輸入に)向上と市場へのアクセスの向上が重要である。さら	(2) 農業・農 人材育成を行う。 (3) 米増産支 共同体(CARD)」 (4) G7で開始	爰:農業 の活動で された「	行政能 生産性 を活用し 食料安全	カ向上支 対上支援 た稲作3 全保障及 リード国	援:総合 の一環と び援に取 びまるこ	的なコ :して、 り組み,)ための	日本の出 米の国I ニューア	ーィ開発を目 に較優位性及 内供給の増加 フライアンス	指し、中央及び地方レベルでの び「アフリカ稲作振興のための ロを目指す。 」の枠組みで、日本は米国とと
	収入は著しく低いに、米の国内供給向上させることが	ことから、小規模農家の生産性の が国内生産でまかなえず、輸入に 重要である。 協力プログラム概要 農民の生計向上に資する既存の	の向上と市場へのアクセスの向上が重要である。さら 頼っている現状であり、今後、国内の米の生産性を	(2) 農業・農 人材育成を行う。 (3) 米増産支 共同体 (CARD)」 (4) G7で開始 もにモザンビー	爰:農業での活動である。 の活動できれた「 かにおけ 2016 年度	行政能: 生産性順を活用し食料安全 る共同!	カ向上支 対上支援が た紹作及国 大保で及国 実施 2018	援:総合 の一環と を びで 期間 2019	i的なコ : して、 り組み,)ための: とから, 2020	日本の比 米の国I ニューア 他ドナ	イ開発を目 比較優位性及 内供給の増加 ライアンス 一とも連携 支援額	指し、中央及び地方レベルでのび「アフリカ稲作振興のための口を目指す。」の枠組みで、日本は米国ととを図る。
(小目標)	収入は著しく低いに、米の国内供給向上させることが	ことから、小規模農家の生産性の が国内生産でまかなえず、輸入に 重要である。 協力プログラム概要 農民の生計向上に資する既存の 技術普及体制の整備・強化、普 及員の能力向上、農民の組織	の向上と市場へのアクセスの向上が重要である。さら 頼っている現状であり、今後、国内の米の生産性を 案件名 サンベジア州コメ生産性向上プロジェクト 無電化村落の住民によるジャトロファバイオ燃料を活用した小規	(2) 農業・農 人材育成を行う。 (3) 米増産支 共同体 (CARD)」 (4) G7で開始 もにモザンビー	爰:農業での活動である。 の活動できれた「 かにおけ 2016 年度	行政能: 生産性順を活用し食料安全 る共同!	カ向上支 対上支援が た紹作及国 大保で及国 実施 2018	援:総合 の一環と を びで 期間 2019	i的なコ : して、 り組み,)ための: とから, 2020	日本の比 米の国I ニューア 他ドナ	イ開発を目 ・ 対優位性及 内供給の増加 ・ ライとも ・ 支援額 ・ (億円)	指し、中央及び地方レベルでのび「アフリカ稲作振興のための口を目指す。」の枠組みで、日本は米国ととを図る。
(小目標)	収入は著しく低いに、米の国内供給向上させることが協力プログラム名	ことから、小規模農家の生産性の が国内生産でまかなえず、輸入に 重要である。 農民の生産でまかなえず、輸入に 重要である。 農民の生産でまかなえず、輸入に 資する既存の 強力プログラム概要 農民の経備・民の組織 技術員の能制強化、適切など、 と、機業技術の指導・定着等の 法・農業技術の指導・定着等の	の向上と市場へのアクセスの向上が重要である。さら 頼っている現状であり、今後、国内の米の生産性を 案件名	(2) 農業・農 人材育成を行う。 (3) 米増産支 共同体(CARD)」 (4) G7で開始 もにモザンビー	爰:農業での活動である。 の活動できれた「 かにおけ 2016 年度	行政能: 生産性順を活用し食料安全 る共同!	カ向上支 対上支援が た紹作及国 大保で及国 実施 2018	援:総合 の一環と を びで 期間 2019	i的なコ :して、 り組み,)ための :とから 2020	日本の比 米の国I ニューア 他ドナ	イ開発を目 ・ 対優位性及 内供給の増加 ・ ライとも ・ 支援額 ・ (億円)	指し、中央及び地方レベルでのび「アフリカ稲作振興のための口を目指す。」の枠組みで、日本は米国ととを図る。
(小目標)	収入は著しく低いに、米の国内供給向上させることが 協力プログラム名 農業技術支援プ	ことから、小規模農家の生産性の が国内生産でまかなえず、輸入に 動力プログラム概要 と前番を表現である。 農民の生計向した。 を選集ののは、の指連を関切等を を選集ののは、の指導を を選集ののである。 というである。 たいの生産ののである。 である。 の生活が、できた。 である。 の生活が、できた。 のである。 のでは、のできた。 のでは、のできた。 のでは、のできた。 のでは、のできた。 のでは、これで、 のでは、	の向上と市場へのアクセスの向上が重要である。さら 頼っている現状であり、今後、国内の米の生産性を 案件名 サンベジア州コメ生産性向上プロジェクト 無電化村落の住民によるジャトロファバイオ燃料を活用した小規 模電化プロジェクト	(2) 農業・農 人材育成を (3) 米増産支 共同体 (CARD)」 (4) G7で開始 もにモザンビー スキーム 技プロ 草の根技協	爰:農業での活動である。 の活動できれた「 かにおけ 2016 年度	行政能: 生産性順を活用し食料安全 る共同!	カ向上支 対上支援が た紹作及国 大保で及国 実施 2018	援:総合 の一環と を びで 期間 2019	i的なコ :して、 り組み,)ための :とから 2020	日本の比 米の国I ニューア 他ドナ	イ開発を目 ・ 較優位性及 内供給アライと ・ 一とも ・ 支援額 ・ (億円) ・ 6.68	指し、中央及び地方レベルでの び「アフリカ稲作振興のための のを目指す。 」の枠組みで、日本は米国とと を図る。 備考
(小目標)	収入は著しく低い に、米の国内供給 向上させることが 協カプログラム名	ことから、小規模農家の生産性の ・・農民の一大の大力の ・・農民の一大の大力の ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	の向上と市場へのアクセスの向上が重要である。さら 頼っている現状であり、今後、国内の米の生産性を 案件名 ザンベジア州コメ生産性向上プロジェクト 無電化村落の住民によるジャトロファバイオ燃料を活用した小規 模電化プロジェクト 福作用持続的灌漑設備開発プロジェクト	(2) 農業・農 人材育成を存う。 (3) 米増度を存支 共同体(CARD)」 (4) G7で財始 もにモザンビー スキーム 技プロ 草の根技協 マルチ	爰:農業での活動である。 の活動できれた「 かにおけ 2016 年度	行政能: 生産性順を活用し食料安全 る共同!	カ向上支 対上支援が た紹作及国 大保で メード 実施 2018	援:総合 の一環と を びで 期間 2019	i的なコ :して、 り組み,)ための :とから 2020	日本の比 米の国I ニューア 他ドナ	イ開発を目 ・ 較優位性及 内供給アライと ・ 一とも ・ 支援額 ・ (億円) ・ 6.68	指し、中央及び地方レベルでの び「アフリカ稲作振興のための のを目指す。 」の枠組みで、日本は米国とと を図る。 備考
(小目標)	収入は著しく低いに、米の国内供給向上させることが 協力プログラム名 農業技術支援 ログラム	ことから、小規模農家の生産性の ・ 小規模農家の生産性の ・ 大変である。 ・ 大変である。 ・ 大変である。 ・ 大変である。 ・ 大変である。 ・ 大変である。 ・ 大変である。 ・ 大変である。 ・ 大変である。 ・ 大変による生産のの ・ 大変による生産のの ・ 大変による生産のの ・ 大変による生産の ・ 大変による生産の ・ 大変による生産の ・ 大変によると ・ 大変によると ・ 大変によると ・ 大変による ・ 大変になる ・ 大変になる	の向上と市場へのアクセスの向上が重要である。さら 頼っている現状であり、今後、国内の米の生産性を 案件名 ザンベジア州コメ生産性向上プロジェクト 無電化村落の住民によるジャトロファバイオ燃料を活用した小規 模電化プロジェクト 稲作用持続的灌漑設備開発プロジェクト 農業技術促進を通じた農村開発セミナー	(2) 農業・農 人材育成を支 共同体 (CARD)」 (4) G7で開始 もにモザン スキーム 技プロ 草の根技協 マルチ 国別研修	爰:農業での活動である。 の活動できれた「 かにおけ 2016 年度	行政能: 生産性順 を活用し 食料安 る共同!	カ向上支 対上支援が た紹作及国 大保で メード 実施 2018	援:総合 の一環と を びで 期間 2019	i的なコ :して、 り組み,)ための :とから 2020	日本の比 米の国I ニューア 他ドナ	イ開発を目 ・ 較優位性及 内供給アライと ・ 一とも ・ 支援額 ・ (億円) ・ 6.68	指し、中央及び地方レベルでの び「アフリカ稲作振興のための のを目指す。 」の枠組みで、日本は米国とと を図る。 備考

	【現状持題と課題】 の進度の大統であり、 をであり、 をであり、 をであり、 をであり、 をでいる。 でのは、 でのは、 でのは、 でのは、 でのは、 でのが、 でのが、 でのが、 でのが、 でのが、 でのが、 でのが、 でのが	(記) 一村一品及び観光開発による雇用機会の創出、地方産業の育成を図る(2) 日本企業の進出の後押しも含む投資環境改善のための人材育成(3) 道路・橋梁・港湾等経済インフラの整備・関連人材育成(4) 地雷除去支援										
						ı	実施	期間	1	ı	支援額	
	協力プログラム名	協力プログラム概要	案件名	スキーム	2016 年度 以前	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	(億円)	備考
		「持続可能な経済成長の促進と 加速化」に向けた具体的取組と	一村一品運動を通じた地域産業振興プロジェクト	フォローアップ								
		して産業振興の上で弊害となった で大き、観光の で大き、観光の でいる地雷の除去支援、開機が の一が出る。 がある漁業の育成及び自に の主を の一がと大変を の一がとないまた。 の一がとないまた。 の一がとないまた。 では、の事による では、から、の事門 家派遣等を通じた投資環境整備	産業分野の課題別研修	課題別研修								
			魚市場運営管理・水産物衛生改善	個別専門家								
開発課題1-3 (小目標)			投資促進円滑化能力能力強化プロジェクト	技プロ							4.26	
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,			鉱物資源分野における能力強化プロジェクト	技プロ							2.51	
産業開発	 産業振興プログ		産業人材育成センター能力強化プロジェクト	技プロ							6.53	
	ラム	を行う。 	職業訓練センター改善計画	協準			-					
			アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ	国別研修					-			
			サブサハラアフリカ地域SME向け技術へのアクセス向上	マルチ							1.5百万USD	世銀・国際金融公社 (IFC) 経由
			電子マネー技術を用いた金融・情報インフラ事業(BOPビジネス連携促進)	協準								
			ティラピア養殖・販売事業準備調査(BOPビジネス連携促進)	協準								
			産業振興分野の青年海外協力隊	JOCV								
	経済インフラ整	要な主要道路・橋梁・港湾の整 備を進める。その際、貧困削	電力マスタープラン策定支援プロジェクト	開発計画								
	備プログラム	減・地方開発の観点と、モザン ビーク国内にとどまらない南部 アフリカ域内の経済開発・産業 振興の観点を踏まえた支援を実 施する。	インフラ整備関連課題別研修	課題別研修								

重点分野 2 (中目標)	人間開発											
	れてきているが、 保健医療サービス 者養成学校におい 人材を育成するた	同施設でサービスを提供する医療の質に大きな問題を抱えている。 てはいまだ統一カリキュラムが割めの体制を構築することが急務と	マセスを改善するために、医療施設の整備等が進めら 原人材の人数と能力が決定的に不足しているために、 特に、医療人材(医師を除く)を養成する医療従事 修備されていない等、適切な知識と技能を有した医療 なっている。さらに、モザンビークではHIV/AIDSの 感染率の高い地域における一層の予防啓発が喫緊の課	【開発課題への開発課題に対し (1)保健人材多 (2)HIV/AIDSB (3)医療機器管	て以下の 成機関を 連組織の	- 取組を行 と核にし D能力強	た人材育 化		ンフラ雪	&備を通	じた医療サー	- ビスの向上
							実施	期間				
開発目標2-1 (小目標)	協力プログラム名	協力プログラム概要	案件名	スキーム	2016 年度 以前	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	支援額 (億円)	備考
保健・医療		保健指標の低い地域において、保健人材育成要請機関を核にし	HIV/エイズ対策システム強化アドバイザー	個別専門家								
		た人材育成・医療サービスの向上を支援する。	人間的出産・出生ケア	第三国研修	_							於:ブラジル
	基礎保健改善プログラム		保健人材養成機関教員能力強化プロジェクト (フェーズ2)	技プロ							2.80	
			基礎保健分野の課題別研修	課題別研修								
			保健人材育成分野の青年海外協力隊	JOCV								
			保健分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力	草の根無償							0. 27	
	2010年の時点で純いつかなかったたた。その結果、教の研修機能の強化	就学率95.5%を達成したが、そのめ、教員養成期間の短縮と、無資 め、教員養成期間の短縮と、無資 員の能力低下が深刻な問題となって を図ることが喫緊の課題となって	所へのアクセスの改善に集中的に取り組んだ結果、 の一方で、増加する小学校と生徒の数に教員の数が追 資格教員の雇用によりその需給ギャップを埋めてき っており、新任教員および現職教員の能力強化のため こいる。さらに、初等教育及び中等教育へのアクセス り、学校施設の増設が喫緊の課題となっている。	【開発課題への開発課題に対し (1)基礎教育の (2)中等教育の (3)学校施設	て「平和 改善 現職教員	- と成長の 員研修シ	ステムの	の強化・			以下の取組	を行う。
開発目標2-2 (小目標)					実施期間					支援額		
教育	協力プログラム名	協力プログラム概要	案件名	スキーム	2016 年度 以前	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	(億円)	備考
		現職教員研修システムの構築・ 強化と学校施設の増設による、	初等教員養成校(IFP)における新カリキュラム普及プロジェクト	技プロ							6.45	
	基礎教育へのアクセス改善・質	教員の育成と教育の質の改善に 重点的に取り組む。	教育分野の青年海外協力隊	JOCV								
	向上プログラム		教育分野の課題別研修	課題別研修								
			教育分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力	草の根無償			-				0. 19	

	【現状と課題】 人間の生活に欠か 緊の課題である。	せない安全な水へのアクセスが図	【開発課題への 開発課題に対し (1)安全な水の	て以下の	取り組み							
			実施期間								支援額	
開発目標2-3	協力プログラム名	協カプログラム概要	案件名	スキーム	2016 年度 以前	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	(億円)	備考
給水・衛生		給水率の低い地域を中心に、安全な水の供給及び衛生施設の普里なりに		課題別研修								
	給水・衛生改善 プログラム	及を目指し、コミュニティ住民 の維持管理能力の強化・衛生習 慣の定着を支援する(給水施設	地方給水・衛生分野の青年海外協力隊	JOCV								
		の建設や改修も含む)	水分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力	草の根無償							0. 40	
重点分野3 (中目標)	防災・気候変動対	対策		•								
	を有するため、そ また、モザンビ 2013年1月の洪水.2	の保全を中心とした環境・気候3 一クは災害に対して非常に脆弱で 及び2015年1月の洪水では人々の5	必要である。また、モザンビークは、貴重な森林資源 変動への対策が必要である。 であり、2010年3月の洪水、2012年1月のサイクロン 上活のみならず、農業・電力インフラなどが一部崩壊	(2)森林管理機 (3)防災力強化 (4)都市部にお	上のための)技術能	力の強化		16			
	題となっている。 タを正確かつ迅速	また、災害のメカニズム、災害弱に伝達することで災害への予防と	災能力の向上・災害リスクマネージメントは大きな課 要因を把握することが重要であり、特に気象観測デー と繋がり、その整備は急務の課題である。都市部にお より、ごみ処理を始めとして環境対策を強化すること		T		宇体	世界長男				
開発目標 3	題となっている。 タを正確かつ迅速 いては、環境汚染	また、災害のメカニズム、災害弱に伝達することで災害への予防と	災能力の向上・災害リスクマネージメントは大きな課 要因を把握することが重要であり、特に気象観測デー ヒ繋がり、その整備は急務の課題である。都市部にお	スキーム	2016年度	2017 年度	実施 2018 年度	期間 2019 年度	2020 年度	2021 年度	支援額 (億円)	備考
(小目標)	題となっている。 タを正確かつ迅速 いては、環境汚染 が必要である。 協力プログラム名	また、災害のメカニズム、災害要に伝達することで災害への予防とが都市機能を低下する原因ともない。	災能力の向上・災害リスクマネージメントは大きな課 要因を把握することが重要であり、特に気象観測デー と繋がり、その整備は急務の課題である。都市部にお より、ごみ処理を始めとして環境対策を強化すること 案件名	スキーム個別専門家			2018	2019				備考
	題となっている。 タを正確かつ迅速 いては、環境汚染 が必要である。 協力プログラム名	また、災害のメカニズム、災害ョミに伝達することで災害への予防とが都市機能を低下する原因ともなる。	災能力の向上・災害リスクマネージメントは大きな課 要因を把握することが重要であり、特に気象観測デー と繋がり、その整備は急務の課題である。都市部にお なり、ごみ処理を始めとして環境対策を強化すること 案件名 森林管理能力強化アドバイザー		年度		2018	2019				備考
(小目標) 環境・気候変動	題となっている。 タを正確かつ迅速 いては、環境汚染 が必要である。 協力プログラム名	また、災害のメカニズム、災害ョミに伝達することで災害への予防とが都市機能を低下する原因ともないがある。 協力プログラム概要 森林資源の保全のための機材整・第化からの温室効果ガス排出別減(REDD+)に資する管理モニタリング体制の構築支援を行うと	災能力の向上・災害リスクマネージメントは大きな課 要因を把握することが重要であり、特に気象観測デー 上繋がり、その整備は急務の課題である。都市部にお なり、ごみ処理を始めとして環境対策を強化すること 案件名 森林管理能力強化アドバイザー 森林保全計画 REDD+モニタリングのための持続可能な森林資源情報プラット	個別専門家	年度		2018	2019			(億円)	備考
(小目標) 環境・気候変動	題となっている。 タを正確かつ迅速 いては、環境汚染 が必要である。 協力プログラム名	また、災害のメカニズム、災害等に伝達することで災害への予防とが都市機能を低下する原因ともなるがある。 協力プログラム概要 森林資源の保全のための機材整備・保全技術移転、森林減出財 第化からの温室効果ガス排出り 労化からの温室効果が表別がである。 リング体制の構築を受けると気象 リング体制の構築のため気象別 別能力の強化について取り組み	災能力の向上・災害リスクマネージメントは大きな課 要因を把握することが重要であり、特に気象観測デー と繋がり、その整備は急務の課題である。都市部にお より、ごみ処理を始めとして環境対策を強化すること 案件名 森林管理能力強化アドバイザー 森林保全計画 REDD+モニタリングのための持続可能な森林資源情報ブラット フォーム整備プロジェクト	個別専門家無償	年度		2018	2019			(億円)	備考
(小目標) 環境・気候変動	題とな正は、での出速である。 はいている。 まなでは、である。 はか プログラム名 防災・気候変動	また、災害のメカニズム、災害等に伝達することで災害への予防とが都市機能を低下する原因ともない都市機能を低下する原因ともない。 協力プログラム概要 森林資源の保全のための機材整備・保全技術移転、森林減少出済を収入するの温室効果ガス排出削減(REDD+)に資する管理モニタと共に、防災力強化のため気象観	災能力の向上・災害リスクマネージメントは大きな課 要因を把握することが重要であり、特に気象観測デー と繋がり、その整備は急務の課題である。都市部にお より、ごみ処理を始めとして環境対策を強化すること 案件名 森林管理能力強化アドバイザー 森林保全計画 REDD+モニタリングのための持続可能な森林資源情報ブラット フォーム整備プロジェクト	個別専門家 無償 開発計画	年度		2018	2019			(億円)	備考
(小目標) 環境・気候変動	題となっている。 タを正確が現場でいている。 が必要である。 協力プログラム名	また、災害のメカニズム、災害等に伝達することで災害への予防とが都市機能を低下する原因ともなるがある。 協力プログラム概要 森林資源の保全のための機材整備・保全技術移転、森林減出財 第化からの温室効果ガス排出り 労化からの温室効果が表別がである。 リング体制の構築を受けると気象 リング体制の構築のため気象別 別能力の強化について取り組み	災能力の向上・災害リスクマネージメントは大きな課 要因を把握することが重要であり、特に気象観測デー と繋がり、その整備は急務の課題である。都市部にお なり、ごみ処理を始めとして環境対策を強化すること 案件名 森林管理能力強化アドバイザー 森林保全計画 REDD+モニタリングのための持続可能な森林資源情報プラット フォーム整備プロジェクト 持続的森林管理・保全プロジェクト	個別専門家 無償 開発計画 技プロ	年度		2018	2019			(億円)	備考
(小目標) 環境・気候変動	題とな正は、での出速である。 はいている。 まなでは、である。 はか プログラム名 防災・気候変動	また、災害のメカニズム、災害等に伝達することで災害への予防とが都市機能を低下する原因ともなるがある。 協力プログラム概要 森林資源の保全のための機材整備・保全技術移転、森林減出財 第化からの温室効果ガス排出り 労化からの温室効果が表別がである。 リング体制の構築を受けると気象 リング体制の構築のため気象別 別能力の強化について取り組み	災能力の向上・災害リスクマネージメントは大きな課 要因を把握することが重要であり、特に気象観測デー と繋がり、その整備は急務の課題である。都市部にお より、ごみ処理を始めとして環境対策を強化すること 案件名 森林管理能力強化アドバイザー 森林保全計画 REDD+モニタリングのための持続可能な森林資源情報ブラット フォーム整備プロジェクト 持続的森林管理・保全プロジェクト 気象観測および予警報能力向上プロジェクト	個別専門家 無償 開発計画 技プロ 技プロ	年度		2018	2019			(億円)	
(小目標) 環境・気候変動	題とな正は、での出速である。 はいている。 まなでは、である。 はか プログラム名 防災・気候変動	また、災害のメカニズム、災害等に伝達することで災害への予防とが都市機能を低下する原因ともなるがある。 協力プログラム概要 森林資源の保全のための機材整備・保全技術移転、森林減出財 第化からの温室効果ガス排出り 労化からの温室効果が表別がである。 リング体制の構築を受けると気象 リング体制の構築のため気象別 別能力の強化について取り組み	後能力の向上・災害リスクマネージメントは大きな課 要因を把握することが重要であり、特に気象観測デーと繋がり、その整備は急務の課題である。都市部におなり、ごみ処理を始めとして環境対策を強化すること 案件名 森林管理能力強化アドバイザー 森林保全計画 REDD+モニタリングのための持続可能な森林資源情報プラットフォーム整備プロジェクト 持続的森林管理・保全プロジェクト 気象観測および予警報能力向上プロジェクト 水関連災害リスク管理組織能力強化支援	個別専門家 無償 開発計画 技プロ 技プロ 個別専門家	年度		2018	2019			(億円)	備考 気候投資基金 (CIF) アフリカ開発銀行 経由
(小目標) 環境・気候変動	題とな正は、での出速である。 はいている。 まなでは、である。 はか プログラム名 防災・気候変動	また、災害のメカニズム、災害等に伝達することで災害への予防とが都市機能を低下する原因ともなるがある。 協力プログラム概要 森林資源の保全のための機材整備・保全技術移転、森林減出財 第化からの温室効果ガス排出り 労化からの温室効果が表別がである。 リング体制の構築を受けると気象 リング体制の構築のため気象別 別能力の強化について取り組み	災能力の向上・災害リスクマネージメントは大きな課 要因を把握することが重要であり、特に気象観測デー と繋がり、その整備は急務の課題である。都市部にお より、ごみ処理を始めとして環境対策を強化すること 案件名 森林管理能力強化アドバイザー 森林保全計画 REDD+モニタリングのための持続可能な森林資源情報ブラット フォーム整備プロジェクト 持続的森林管理・保全プロジェクト 気象観測および予警報能力向上プロジェクト 水関連災害リスク管理組織能力強化支援 環境・防災・気候変動分野の課題別研修	個別専門家 無償 開発計画 技プロ 技プロ 個別専門家 課題別研修	年度		2018	2019			(億円) 6.19 8.95 5.50	気候投資基金 (CIF) アフリカ開発銀行

その他

	【現状と課題】			【開発課題への対応方針】								
7.014					実施期間						古坚ケ	
その他 (個別重点課 題)	協力プログラム名	協力プログラム概要	案件名	スキーム	2016 年度 以前	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	支援額 (億円)	備考
	その他個別の案		国際漁業振興協力事業	農林水産省技協								
	件		青少年育成(スポーツ、交通安全)、社会的弱者支援	JOCV								